

生産者、消費者のみなさまへ

2024年10月3日  
製造許可の手続き開始

# 牛由来原料 (ビーフミール)の 鶏や豚用飼料への利用を 再開します

## 何が変わる？

今まで



ビーフミールは  
主に焼却  
していました



これから



ビーフミールを  
鶏や豚用の飼料に利用できます  
(牛用飼料には利用できません)

※牛由来原料を利用した飼料には  
ミートボーンミールと表示されます

## 国内での専門家による安全評価

2023年 農業資材審議会からの答申

10月

鶏や豚用の飼料に  
ビーフミールを利用することは  
適切と答申を受けました

2024年 食品安全委員会からの評価

5月

牛に対するリスク管理がこれまでと同様に  
遵守されている限り、ビーフミールを  
鶏や豚用の飼料に利用しても、人への  
健康影響は無視できると評価されました

## 海外での利用状況

国際ルール※では、ビーフミールを鶏や豚用の飼料に使用することを禁止していません  
我が国が畜産物の輸入を認めているアメリカ、カナダ、ブラジル等多くの国では、ビーフミールの  
鶏や豚用飼料への使用を認めています

※国際獣疫事務局 (WOAH) によるルール

## ビーフミールの安全管理の方法



原料は、と畜検査を受けた安全な牛の部位を使用します

※BSEの原因とされる異常プリオンの蓄積しやすい部位は、と畜場等で除去・焼却されるため、飼料として利用されません



ビーフミールを使う鶏や豚用飼料の製造工程は、  
牛用の工程と完全に分かれています

⇒ビーフミールが牛用飼料に混ざることはありません



ビーフミールを使った鶏や豚用飼料は、容器の専用化や注意事項  
の表示等を行います

⇒誤って牛に給与されることを防止します

今後も、工場や農家への検査を行いBSE対策を続けます